

高島及び関崎周辺地域の野鳥

高島及び関崎地域は、豊後水道に面して、四国愛媛県の佐田岬と近い距離にあり、春や秋には多くの鳥が渡りのためにこの地域を通過します。この地域は渡りの途中でエネルギーを補給したり、休息、悪天候の時の避難場所など、これらの渡り鳥にとって重要な場所となっています。

また、高島は、大分県で唯一のウミネコの繁殖地で、県の天然記念物に指定されています。



関崎

関崎で観察される鳥

夏鳥

繁殖のため、南の国から、春に日本に渡ってきます。オオルリ、キビタキ、サンショウクイ、ホトトギス、ツバメなど



オオルリ(幼鳥)

冬鳥

越冬するために、北の国から、秋に日本に渡ってきます。ウミウ、ハクセキレイ、ジョウビタキ、シロハラ、アオジなど



ウミウ

旅鳥

北の国で繁殖し、南の国で越冬するために通過する鳥です。エゾビタキ、ノビタキ、コムクドリなど



エゾビタキ

留鳥

この地域の林の中や草地、海岸などで、1年中生活している鳥です。メジロ、コゲラ、カラスバト、ホオジロ、モズ、イソヒヨドリなど



メジロ

タカの渡り

関崎では、春と秋に渡りをするタカの仲間が見られます。

春期

2月下旬、関崎から四国佐田岬へのノスリの渡りに始まり、逆に四国から九州へとオオタカ、ハイタカが移動してきます。サシバやハチクマは3月下旬、関崎から四国へと渡り始めます。



サシバ

秋期

9月上旬に始まるハチクマ、サシバの渡りは、9月下旬に、ハチクマのピークを迎えます。10月上旬には、サシバの渡りがピークとなり、中旬にはノスリの渡りがピークになります。



ハチクマ

ウミネコの繁殖地高島

高島本島の東端部、及び「シラタキ」「フナマ」「アシカ」の3島では、約5000羽のウミネコが繁殖を行っています。ウミネコは大分県内の海岸線や河口付近で最も普通に見られるカモメの仲間です。全国的にも日本周辺の海のどこにでもいる鳥ですが、世界的に見たとき、繁殖地が日本列島周辺にしかないため、ウミネコの繁殖地は天然記念物として厳重に保護されています。この高島もウミネコの重要な繁殖地で、1955年に大分県指定の天然記念物となっています。

ウミネコは、3月に巣を作り、2〜3個の卵を産みます。5月〜6月が子育ての時期で、7月になると幼鳥が岩棚ではばたきの動作をみせるようになります。8月上旬、親鳥たちは幼鳥を岩棚に残したまま海上に去り、洋上生活を始めます。やがて数日後、幼鳥たちも群をなして岩棚を離れ洋上生活に入ります。



高島



ウミネコ



ウミネコの飛翔



ウミネコのコロニー



フナマ島



ウミネコの卵



ウミネコのヒナ